

立教大学総長

郭 洋春
カク ヤンチュン



図書館通信

読書を通してしびれる経験を

大学図書館の起源は中世後期のヨーロッパにおける大学の形成、発展と密接に結びついていると言われています。それは学寮 (collegium) 図書館が始まりとされています。また学校教育法には、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」と書かれています。言い換えば、大学とは知の拠点、知の普及の場であり、その象徴として図書館といえることができます。とはいっても、かつての図書館と現在の図書館では、その役割が大幅変わってきました。

第一に、海外の学術雑誌も含め、多くの雑誌が電子ジャーナルとして利用できることになり、それへのアクセスを確保することが大学図書館の大きな役割となってきました。第二に、学生は授業だけではなく、自発的な学習や実践の必要性が重視されてきており、大学図書館にもその支援の「場」の提供や図書館職員等による学習支援が期待されてきています。要するに、学生にとって大学にとって図書館の果たす役割はますます増してきているといえるでしょう。特に、21世紀は知識創造社会と言われるようになります。今までのようにモノづくり、製造業中心の社会



トピックス

- 巻頭言 立教大学総長 郭 洋春・・・1ページ
- こらこらコラム ほほ日の学校長・編集者 河野 通和・・・1ページ
- 図書館と私 豊島区教育長職務代理人 北川 英恵・・・2ページ
- 生涯の一冊 ランニングアドバイザー 大島めぐみ・・・2ページ
- この本カフェ・・・2ページ
- 東アジア文化都市2019豊島 祭事・芸術部門員著 東澤 昭・・・3ページ
- 池袋とヤミ市 東京理科大学工学部建築学科助教 石橋 督和・・・3ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー・・・4ページ

発行 ●豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五二
ライズアリーナビル四階・五階 〒170-0844
電話 ●03-3983-7861
FAX ●03-3983-9904
ホームページ ●http://www.library.toshima.tkyo.jp/
発行日 ●令和2年1月



新航路[52]

ひかり文庫が50周年を迎えます

新年 あけましておめでとうございます

昨年は、豊島区にとって大きく飛躍した年でした。「東アジア文化都市2019豊島」が、2月1日に開幕し、11月24日に閉幕しました。日本の豊島区、西安市(中国)と仁川広域都市(韓国)が各都市の特徴を活かした魅力的な事業を展開するとともに相互交流事業をおとて友好協力関係を築いてきました。図書館も絵本等児童書384冊を含め、関係図書資料843冊を新たに収書し、図書展示や講演会等を開催しました。こうした成果を今後もレガシーとして生かしていきたいと思えます。

さて、本年は、豊島区立中央図書館ひかり文庫(点字図書館)が50周年を迎えます。日頃より精力的に活動していただいている製作ボランティア団体の皆様とご相談しなが

ら、読書バリアフリー法の時代にふさわしい、50周年記念事業を計画していきます。

また、ひかり文庫では、簡単な操作であらゆる活字をAIが読み上げる「AI視覚支援デバイス(オーカム)」を使った読書体験をテスト導入しました。これは、小型軽量カメラが捕らえた文字を耳元のスピーカー、またはBluetoothヘッドフォンから音声で聞くことができるAI機器です。視覚障害者の方が、中央図書館の資料をじかに読むことも夢ではありません。

今後も、ひかり文庫は、読書バリアフリー法の目的である「障害の有無にかかわらずすべての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現」に努めてまいります。

から、創造力が新たな社会を構想し、産業を生み出すということなのです。その時、読書というのは、創造力の海を満たす大切な手段の一つになるでしょう。私は高校生の時読んだ本を今でも忘れることができます。ロシア革命の時期を生きた一人の成年の一生を描いた本でしたが、読後、全身に電流が走りしばらく動けなかったことを覚えています。本にはそれだけの影響力があります。まさに、人生100年時代を生きる若い人たちの知的好奇心を喚起し、創造力を掻き立てる本に出会える場所が、図書館だといってもいいでしょう。ぜひ多くの人に、読書を通してしびれる経験をしてもらいたいものです。その経験が、人生を生きる糧になると信じます。

こらこらコラム

第11回 「災害からどう守るか」

ほほ日の学校長・編集者 河野 通和

11月1日、朝起きるなり沖縄の首里城が燃え落ちてゆく映像が目飛び込みました。あまりの衝撃に、全身から力が抜けるようでした。復元に情熱を傾けていた人たちの顔が次々と目に浮かびます。パリのノートルダム大聖堂の火災を前に、ただ呆然と立ちすくんでいたパリ市民の表情が重なります。

1992年に復元された首里城は、沖縄の人々の心の拠り所であり、琉球王国の歴史と文化を象徴するものでした。被害は建物の焼失だけではありません。展示されていた約500点の美術工芸品や文書などの文化財が焼失しました。この先、建物は復元できたとしても、これらは取り返しようがありません。

10月には、台風15号、19号が日本列島に大きな爪痕を残しました。各地の図書館や博物館が浸水し、歴史的な資料や収蔵物、書籍などに甚大な被害が出ました。川崎市民ミュージアムでは、地下収蔵庫9室すべてが浸水し、所蔵していた古文書など、約26万点の大半が水につかりました。漫画家の手塚治虫さんやロートレックの作品も含まれます。東京都立大学世田谷キャンパスも浸水し、地下などに収蔵された約9万冊が被害に遭いました。東日本大震災後、巨大津波に襲われた陸前高田市立博物館、市立図書館などで、職員らが(多くの犠牲者も出ました)、収蔵品、水没本の修復を黙々と行っていた姿が思い出されます。

いまや台風の常識が大きく変わりました。ハザードマップを手に、事前に水害対策を講じること、いざという時のための行動マニュアルの共有、水濡れた文献や蔵書の修復方法の習得・蓄積などが図書館にも求められる時代になりました。

気候変動による災害の脅威が高まるなか、被害を未然に防ぐ人知が求められています。災害列島に住まう私たちの覚悟が問われています。

1959年東京都生まれ。法政大学経済学部卒業。立教大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程後期課程単位取得退学。2001年4月より経済学部教授。経済学部長等を歴任して、2018年4月より総長。専門分野は開発経済学・アジア経済論。

生涯の一冊 (54)

～オリンピック・パラリンピアンが選ぶ1冊～



■ **ぼくのジャングルを救って!**
モニカ・サーク / 文
ビヤネール多美子 / 訳
BIIAビルネルストロム / 絵
偕成社 1988年

ランニングアドバイザー

大島 めぐみ (おおしま めぐみ)



オリンピック2004年アテネ大会、2006年シドニー大会や世界陸上など数々の世界大会で陸上長距離の日本代表として活躍。トラックからマラソンまで幅広い競技に対応できる日本屈指のスピードランナーとして知られた。アスリートの視点から見た食事法に関しても関心が高く、2010年には野菜ソムリエの資格とアスリートフードマイスターの資格も取得。2013年にはIAAF Level1コーチ資格を取得。キッズの育成にも力を注いでいる。

「息子との一冊」

私の「生涯の一冊」は、実在するオマール少年が起した勇気ある行動の話が綴られている『ぼくのジャングルを救って』という絵本です。メキシコ最後のジャングルを破壊から守るために、木を切らないで、と訴えながら1400kmの道のりを行進する少年の話。この本との出会いは、確か2000年頃、合宿で訪れていた宿に置いてあったものでした。普段から遠征の移動や合宿の合間などに本は読んでいたのですが、絵本は小さい頃に読んでくられて大人になってからは触れる機会はありませんでした。それなのにどうしてこの本を

手にしたのかというと、地球の環境問題に少しだけ関心を持っていたからです。長距離やマラソンの選手は、夏の期間、涼しい高原や北海道などで合宿をします。35度を越える猛暑の中では十分なトレーニングを行うことができず、体へのダメージが残り、疲労が抜けない秋以降のシーズンに影響を及ぼしてしまふことがあります。また、気候によってパフォーマンスが大きく左右されることから、暑さに対しては敏感で、自然環境を意識していたのです。私はこの本から環境問題だけではなく大切なことを学びました。オマール少年の自分の考えや想いをそのままにせず行動に移していく姿や、諦めずにやり抜く力は、私の競技人生にも当てはまることでした。

私の「生涯の一冊」になった理由がもう一つあります。それは、息子もこの絵本に興味を持ってくれたことです。偶然なのですが、息子がオマール少年と同じ8歳の頃、私の本棚からこの本を見つけたことがきっかけで、選手時代の話や環境問題、目標を達成するための必要なプロセスなどをじっくり話すことができました。オマール少年の行動力に驚き、夢や目標を見つめ、自分のできることは何かを考える息子の姿に成長を感じました。本が与えてくれる影響力の深さをもっともっと知ってほしいと思っています。息子との「コミュニケーション」をとることができた本の世界、これからもジャンルにとらわれずに、様々な本との出会いをしていきたいと思えます。



図書館と私④



豊島区教育長職務代理者
北川 英恵 (きたがわ えみ)
【プロフィール】
豊島区図書館経営協議会委員。
元豊島区立中学校PTA会長。
現在は民生児童委員や地域コーディネーターとして地域の子供たちを見守る。

「ねえ、読んで」の思い出

「おはようございます！」チャイムと同時に教室の扉を開ける。朝の読み聞かせタイムだ。息子が小学生の頃、保護者による図書ボランティアとして、週1回、朝の15分を子供たちと過ごした。読み聞かせの本を選ぶのは楽しい、けど難しい。近くの区立図書館へ何度も足を運び、「低学年なら昔話もいいかな。高学年は頭の体操で回文はどうだろう」などと、担当するクラスの子供たちの顔を思い浮かべながら、児童書コーナーで思案に暮れたものだ。

ある朝、用意した2冊を読み終わったが、まだ時間がある。その時、最前列の男児が「最初の本、また読んで！」と声をあげた。すると、次々と「読んで、読んで！」と続く。絵と私の声から彼らを感じ取ったものは千差万別だ。が、その先には、それぞれの新たな世界が確かに広がりはじめていた。私の「ドキドキ、ワクワクを味わってほしい」という想いと、子供たちの心がシンクロした瞬間だった。

休休みの図書室では、大河ドラマならぬ「大河読み聞かせ」と銘打ち、数か月かけてシリ-

ズ本の朗読劇を開催したこともあった。決して大きいとは言えない絵本に100人もの視線が注がれる。ページをめくると一斉に首が動く。嵐の山小屋で始まった物語は、子供たちをすっかり魅了していた。「ねえねえ、次もまた読んでね」と、笑顔で教室へ戻る子供たちの姿は弾んでいるように見えた。

しばらくして、私は図書ボランティアを卒業した。子供たちの「ねえ、読んで」の声を聞かなくなって久しい。本を通して特別な空間を子供たちと共有していたあの頃を、今でも懐かしく思い出す。先日、図書館のYAコーナーに足を運んでみた。棚の上に目をやると、近隣中学校の生徒たちが記した本の紹介カードが並ぶ。ああ、そうか。これも「ねえ、読んで」の声なんだ。これまでは、私たち大人が様々な想いを込めながら伝えていた本の世界。少し大人になって、彼らが自分で見つけた本の楽しさはどんなものだろう。今度は私が受け取る側だ。彼らのお薦めの世界に浸ってみようと、本に手を伸ばした。

本はひとつの世界。それを手にとって読むことは新しい世界に触れること。知識獲得型もいいけれど、世界獲得型の読書を目指しませんか。あなたは新年に、どんな本を選びますか。



20 杯目

新しい年に読みたい本

書名『だいじょうぶ だいじょうぶ』

いとうひろし / 作・絵 講談社 2006年

おじいちゃんと手を繋ぎとことこ散歩していると、世界はどんどん広がっていきます。新しい発見や楽しい出会いが増えますが、困った事、怖い事にも出会うようになります。そのたびにおじいちゃんは、おまじないのように「だいじょうぶ だいじょうぶ」とやさしく手を握ってくれます。「世の中そんなに悪い事ばかりじゃない」と。時間が過ぎ、老いてゆく祖父を、今度は僕が励まし寄り添います。誰かが傍で大丈夫と言ってくれる、それだけで乗り越えられる事もありますね。幼児向け絵本ですが大人へのメッセージも感じる一冊です。

⇒ 【鎌田 和枝 (かまた かずえ)】

書名『82年生まれ、キム・ジョン』

チョ・ナムジュ / 著 斎藤真理子 / 訳 筑摩書房 2018年

ごく普通の真面目な女性、キム・ジョンは大学卒業後、広告代理店で働き、大学の先輩ジョン・デヒョンと30才で結婚。出産を機に退職し、家事育児に専念。ところがその1年後、彼女は憑依現象に見舞われるようになる。自製の蓋が開くと本音が飛び出すが、それはしかし自分ではなく母や友人や死者ら、誰かの言葉だ。

子供を持つ女性として生きることはどんなことか、出産育児の主体ではない男性たちは知らなくて当然だが、この物語を知ることで男も女も生きやすくなるのではないだろうか。

⇒ 【内田 美津子 (うちだ みつこ)】

書名『リチウムイオン電池が未来を拓く』

吉野彰 / 著 シーエムシー出版 2016年

日本で生まれたリチウムイオン電池は、世界中の携帯電話とノートパソコンを動かしている。2019年ノーベル化学賞を受賞した著者が、このリチウムイオン電池の開発秘話を語る。

電池開発のスタートは、1981年。寺尾聰の「ルビーの指輪」がレコード大賞になった年だ。リチウムイオン電池の誕生は、中森明菜の「ミ・アモーレ」がレコード大賞の1985年。WINKが「さびしい熱帯魚」でレコード大賞をとる1989年に、金属箔に塗液を塗り、シワなく巻き取れる技術が確立し電極材が完成する。これらの歌を口ずさみながら、私達が毎日お世話になっている「リチウムイオン電池」を読み砕いてみよう!

⇒ 【石関 慎一 (いしげき しんいち)】

寄稿者はしほコミュニティ大学の内、登録して学んでいる「マナビト生」です。マナビトゼミ担当の人類学者佐藤社広氏の監修のもと、毎回テーマに合わせて文学、児童書、科学や評論などの分野のお薦め本を1冊紹介しています。



シリーズ(全4回)

東アジア文化都市 2019豊島

第4回 文化がなくなると過去と未来、そして世界



東アジア文化都市2019豊島 祭事・芸能部門責任者 東澤 昭

大きく変貌する豊島区

いま豊島区は、舞台芸術の街として、マンガ・アニメの聖地として、大きな注目を集めるようになりました。とりわけ、「東アジア文化都市2019豊島」のレガシー事業でもあるハレザ池袋や野外劇場を備えた公園としてリニューアルされた池袋西口公園(クローパリング)のオープンをはじめとする様々なプロジェクトは、これまでに以上に多様な文化をこの街に呼び込み、それに魅せられた人々が訪れることで、さらなる賑わいと文化的、経済的波及効果はこの街にもたらさずにはいられません。

しかし、こうした街の発展や区内の各地域で活発に展開されている文化芸術の取り組みが、これまで多くの人々が長い歴史の中で育んできた豊かな土壌のうえに花開いたものである、ということをお忘れはならないでしょう。

豊島区らしさとは何だろう？

大きく発展しつつある豊島区ですが、そもそも豊島区らしさとは何なのでしょう？

今でこそ人口が29万人を超え、日本一の高密度都市となった豊島区ですが、その昔、江戸時代の豊島区は純農村地帯でした。明治初年当時、9千人を超える程度だったその人口は交通網の発達とともに増え続け、明治45年には、2万人以上に達してい

ます。さらに、大正12年の関東大震災後、下町などから多くの人が移住、宅地化に拍車をかけました。

昭和20年前には、31万人を超えたと言われますが、昭和20年4月13日の空襲で区域の約7割が消失、人口は9万人にまで激減しました。そして終戦後、人口は再び流入期を迎え、昭和39年の東京オリンピックの頃には何と37万人に達していたのです。

こうして見ると、決して巨大とは言えない豊島区エリアでの人口変動の大きさは驚くばかりです。

常に多様なものを受け入れ、育み、新たな文化芸術を生み出してきたという豊島区の特徴、豊島区らしさでもいうべきものは、あるいはこうした人口動態のダイナミックな振れ幅の大きさがもたらしたものと云えるのかも知れません。

「東アジア文化都市2019豊島」において、私たち公益財団法人として未来文化財団は「祭事・芸能部門」を担当しましたが、その事業の一つ「民俗芸能」としてでは、区指定無形民俗文化財である「長崎獅子舞」「富士元囃子」「雑司ヶ谷鬼子母神御会式万灯練供養」など、様々な民俗芸能を紹介しています。このほか、各地域において伝承されてきた祭事・芸能の数々、かつての純農村地帯から次第に町場化し、都市へと変貌する過程において、伝統的なものを次の世代に守り伝えようという強い意志のもと、人々の間で脈々と受け継がれてきた成果なのです。

それらは、過去から未来へとつながる長い時間の積み重ねの中で、ゆらぎ、変化し、発展しながら、地域コミュニティの核となり、豊島区らしさを形づくるものとして、現在の多様な文化芸術のバックボーンとなっているのだと思います。

国境を越え、時空を超えて つながるもの

「祭事・芸能部門」では、これら郷土芸能のほか、「しよま能の会」や「伝統芸能@野外公園」「天田ユキヲ 薪能」など、芸能の精華ともいえるべき能楽公演や「大田

楽しいがくろ絵

巻一を上

演じまし

た。これ

らはまさ

に、千数

百年の昔

中国や朝

鮮半島を

経由して

仏教伝来

とともに

わが国に

伝えられ

今日の形

に変わ

り変容

・

発展した

芸能の源

流ともい

うものが

を想起

させるも

のでした

。これら

をご覧に



【IKEBUKURO新能】新演出能「能楽Quest」/ シテ：観世喜正 写真：新宮夕海

さらに、都市の現代的な建築物を借景として新能を観賞し、中世の装束を身に着けた躍り手とアニメの世界から抜け出たコスプレイヤーや東アジアの獅子たちが乱舞する大田染を絵巻として見るとき、これらの芸能が、現代の舞台芸術やマンガ・アニメの世界とも奥深いところで繋がっていることを感じられたのではないのでしょうか。

このことは、私たちの芸能が地域固有の文化資源であると同時に、地域を越え、国境を越え、さらには文化の領域をも越えて人々の間に共通するものであることを示すものでした。

「東アジア文化都市2019豊島」の意義の一つは、これに参加したすべての人々が相互の多様な文化に思いを寄せ、理解を深めることにあるのだと確信いたします。

東澤 昭(とうざわ あきひろ)

2003年、豊島区文化デザイン課長就任。文化商工部長、保健福祉部長を経て、2014年より公益財団法人として未来文化財団常務理事・事務局長、フェスティバル/トータル実行委員会委員、東京芸術祭実行委員会委員兼事務局次長を務める。

池袋のヤマシ市(全4回)

第4回 変わりゆく池袋の公共空間

東京理科大学工学部建築学科助教

石橋 督和(いしはら ますかず)

池袋駅周辺でもっとも古い土木構築物の一つにウイロード(雑司ヶ谷隧道)という、駅の東西口をつなぐ地下道がある。つくられたのは一九二五年。関東大震災の2年後だ。

昨年の春からこの道を再生させるため、美術作家の植田志保さんが制作を続けてきたことをご存知だろうか。ウイロードからほど近い池袋駅前公園で天井パネルの描画を始め、7月からはウイロードで壁面描画を行い、このほど完成を迎えた。以前は暗い印象があったウイロードが、植田さんによって色に包まれた空間へと生まれ変わった。ただ美しいだけではない。植田さんは、九〇年以上前から池袋を見続けてきたウイロードに、池袋の歴史そのものを色として表現している。

ウイロードだけではない。いま池袋は公共空間の再生によって、大きく変わりつつある。二〇一四年に消滅可能性都市に該当すると指摘された豊島区が、池袋のまちづくりの目玉としたもの



新しくなったウイロード西側入り口

作者の植田志保さんは、「列車の走る音が鼓動のように感じ、母胎にいるイメージから全体の温度を膨らませました。入り口はヤマシ市のひかりを漆喰に込め、地元の方の思い入れある品で型押しをしました」と話しています。

今回の公共空間整備が誘発する再開発はどのようなものになるのだろうか。すでに中池袋公園のリニューアルとともに旧区役所と豊島公会堂の跡地は、Harera池袋として再開発された。今も残る開市の空間(池袋西口駅周辺や、東口の美久仁小路、栄町通りなど)は今後どうなるのだろうか。多様な都市空間が共存してこそ、都市は魅力になる。公共空間とは何か。池袋らしさとは何か。我々は変わりゆく池袋を見つめながら、その問をあらためて考える必要があるだろう。

図書館イベント情報



- 中央図書館 3983-7861
- 池袋図書館 3985-7981
- 駒込図書館 3940-5751
- 目白図書館 3950-7121
- 巣鴨図書館 3910-3608
- 千早図書館 3955-8361
- 上池袋図書館 3940-1779
- 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

★…児童・あかちゃん向け ●…一般向け

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来て下さいね。

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	1月	2月	3月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 14:00	最終日曜日 10:30 11:30	★18日・豊島岡女子学園読み聞かせボランティアおはなし会 13:30~14:00 ★19日・かるた大会※ 14:00~15:00 ★25日~2月14日・本の福袋 ★26日・ボランティアおはなし会(としまりみち草の会) 14:00~	★2日・おはなしこうさく会 14:00~14:30	★1日・おはなしこうさく会 14:00~14:30
駒込図書館 こまちゃんのへや (※印は 地域文化創造館)	土曜日 14:30	第1水曜日 11:00※	●14日~23日・新春さくらおみくじ	★8日・かるた大会※ 14:30~16:00	●1日~・ソメイヨシノスタンプラリー ●20日・桜の名所ツアー 13:00~15:00
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 15:30	第3火曜日 11:00	★15日・カルタ大会 15:30~16:00	●9日・手作り絵本ワークショップ 13:00~15:00 ★26日・こうさく会 15:30~16:00	★18日・かみしばい 15:30~16:00 ★25日・スライド 15:30~16:00
上池袋図書館 おはなしの部屋 (※印は地下ホール)	水曜日 15:00	最終水曜日 11:00※	★18日・親子で楽しむ映画会※ 14:00~14:30 ★26日・かるた大会※ 13:30~14:30	★9日・大人の調べる学習※ 15:00~16:30 ★22日・親子で楽しむ映画会※ 14:00~14:30	★28日・親子で楽しむ映画会※ 14:00~14:30
池袋図書館 ワークルーム (※印は区民集会所)	土曜日 14:30	第1水曜日 11:00	●19日・バリアフリー映画会※ 13:30~15:30 ●20日・俳句会※ 10:00~12:00 ●22日・読みきかせ講座※ 10:30~12:00 ★25日・カルタ大会 14:30~15:30	●17日・ハンドメイド倶楽部※ 10:00~12:00 ★29日・よんでみよう!やってみよう!かがくのぼん!※ 14:30~15:30	●11日・読みきかせ講座※ 10:30~12:00
目白図書館 地下区民集会所	水曜日 15:00	第1水曜日 14:00	★18日・しんしゅんカルタ大会 15:00~16:00	●16日・バリアフリー映画会 14:00~16:30	★14日・めじろ図書館まつり
千早図書館 視聴覚室	水曜日 (第3水曜日除く) 15:30	水曜日 10:30	★19日・かるた会 15:30~16:00	★16日・おたのしみ会 15:30~16:00	★15日・おたのしみ会 15:30~16:00

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

第1回 中学生版 知的書評会戦 「ビブリオバトル」 in 中央図書館

日時 3月15日(日) 午後3時~4時30分
内容 中学生によるビブリオバトル(知的書評会戦) テーマは「僕の私のイチオシ本!!」
会場 中央図書館 5階会議室
対象 中学生以上
定員 バトラー 5名(中学生のみ) 観覧者 30名(中学生以上)
 応募多数の場合は中学生優先
申込 電話・FAX・メール・直接来館 (2月1日(土)午前10時~申込受付)
問合せ 中央図書館サービス調整グループ YA担当



● 中央図書館の申し込み・問合せ先 ●

電話 03-3983-7861
 FAX 03-3983-9904
 メール A0027900@city.toshima.lg.jp

中央図書館 大人向けナイトガイドツアー

日時 2月29日(土) 午後6時15分~7時30分
内容 大人向け館内ツアーで、普段は入ることができない閉架書庫内の見学などができます。
会場 中央図書館
定員 15名(図書館の利用登録をしている方)
申込 1月21日(土)~2月16日(日)応募多数の場合は抽選。電話、FAX、来館
問合せ 中央図書館サービス調整グループ

講演会 トキワ荘の漫画たちと今の漫画界の真実

日時 2月9日(日)午後3時~4時(開場午後2時30分)
内容 トキワ荘の漫画家たちと交流のあった小説家・漫画原作者・長崎尚志氏の講演会を開催
会場 としまセンタースクエア
定員 300名(当日先着順)
主催 東京都書店商業組合豊島支部(共催:豊島区)
問合せ 有限会社 野上書店 [TEL] 03-3953-4831

子どもの読書に関する講習会 発想を広げるおはなし工作会

日時 2月13日(木) 午後2時~4時(開場:1時45分)
講師 八木 紘一郎(やぎ こういちろう)氏
内容 幼児から小学生低学年のおはなし会ででき、子どもの考える力を育む、工作のアイデアを紹介。
会場 あうるすぽっと 会議室B
対象 ①豊島区内の教育・福祉施設などで、おはなし会の活動をしている方
 ②おはなし会でできる工作に興味のある方(区内在住・在勤・在学)
定員 80名(1月15日(水)午前10時~申込受付先着順)
申込 電話、FAX、Eメール、来館
問合せ 中央図書館児童サービスグループ



休館のお知らせ

図書館システム入れ替えのため年末12月29日(日)から令和2年1月13日(月)まで全図書館が休館します。期間中は貸出、予約受付、図書館ホームページの閲覧はできません。ご迷惑をおかけしますがご理解のほどよろしくお願い致します。

開館時間	中央図書館	駒込・上池袋・千早図書館	巣鴨・池袋・目白図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
平日 午前10時~午後10時 土日祝 午前10時~午後6時	● 駒込・上池袋 ● 平日 午前9時~午後8時 土日祝 午前9時~午後6時 ● 千早 ● 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後6時 ※駒込図書館は、平日は、午前8時から資料の返却と、予約資料の受取りができます。	● 巣鴨 ● 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後6時 ● 池袋・目白 ● 平日 午前9時~午後8時 土日祝 午前9時~午後6時	平日 午前10時~午後7時 土日祝 午前10時~午後5時	
○は土日祝の開館時間 ■は休館日	1月 日 月 火 水 木 金 土 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1月 日 月 火 水 木 金 土 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1月 日 月 火 水 木 金 土 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1月 日 月 火 水 木 金 土 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
	2月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	2月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	2月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	2月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29
	3月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3月 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

図書館カレンダー

編集後記
 ●先月、宝塚を初めて観劇しました! Hareza池袋のエリアが一新して、今年も華やかなイベントが繰り広げられますね。楽しみです。(狩)
 ●いよいよオリンピックイヤーに突入しました。豊島区は競技会場はありませんが、世界各国から東京へお越しになる方々へ魅力を発信し、文化面で大会を盛り上げていきます! (小)

講演会 ● 韓国の琴「伽倻琴(カヤグム)」に出会う

日時 1月26日(日)
 午後2時~4時(開場:午後1時30分)
内容 韓国の琴「伽倻琴」の歴史や特徴の紹介。演奏もお楽しみください。
会場 千早図書館 2階 視聴覚室
講師 金美仙氏(伽倻琴奏者)
 金幸子氏(伽倻琴講師)
定員 40名(予約不要、先着順)

◎ 千早進歩自由夢 ◎

● バイオリン演奏会
日時 2月15日(土)
 午後2時~4時(開場:1時30分)
内容 クラシック、アニメ音楽の演奏のほか、バイオリンと詩の朗読の共演やバイオリン体験コーナーもあります。
会場 千早図書館 2階 視聴覚室
演奏 手嶋佳津子氏(バイオリニスト)
定員 40名(予約不要、先着順)

● 三遊亭怒輝落語会
日時 2月29日(土)
 午後2時~4時(開場:午後1時30分)
内容 演目は当日のお楽しみです。
会場 千早図書館 2階 視聴覚室
定員 40名(予約不要、先着順)

問合せ 千早図書館 電話 3955-8361
 FAX 3955-8785